



# 酒田港中長期構想

～北前酒田湊のKOEKI(交易&公益)好循環～

2019年3月

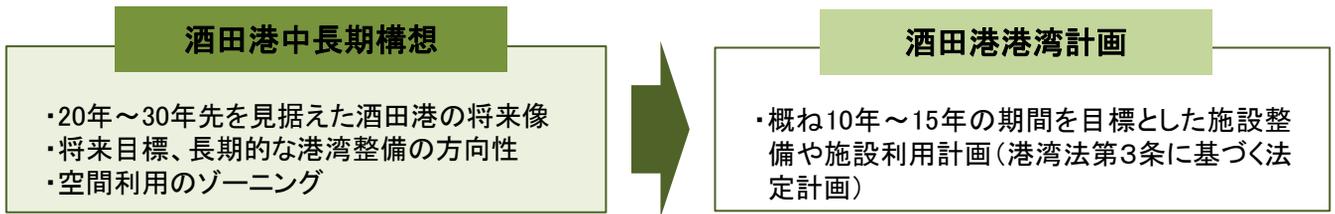
# 目次

はじめに	-----	1
第1章 酒田港の目指すべき方向性と施策	-----	2
第2章 実現に向けた取組み	-----	5
第3章 中長期的な空間利用のゾーニング	-----	18
資料 施策の展開イメージ	-----	19



## ■背景

- 酒田港は、山形県唯一の重要港湾であり、北前船交易の時代から賑わった歴史ある港で、山形県の経済・社会の発展とともに成長してきました。
- 近年は、人口減少、世界経済のグローバル化、エネルギーの需給動向、外航クルーズ船の急増など、環境が大きく変化しています。さらに、平成23年の東日本大震災を経て、防災対策も急務となっています。
- 国土交通省が平成30年に策定した港湾の中長期政策「PORT2030」を踏まえて、近年の環境変化に対応すると共に、更なる地域の発展に向けて、20年から30年先を見据えた酒田港の将来像を中長期構想として取りまとめました。今後、この中長期構想の実現に向け、施設整備計画となる酒田港港湾計画を改訂し、港湾整備を進めていきます。



## ■酒田港中長期構想検討委員会

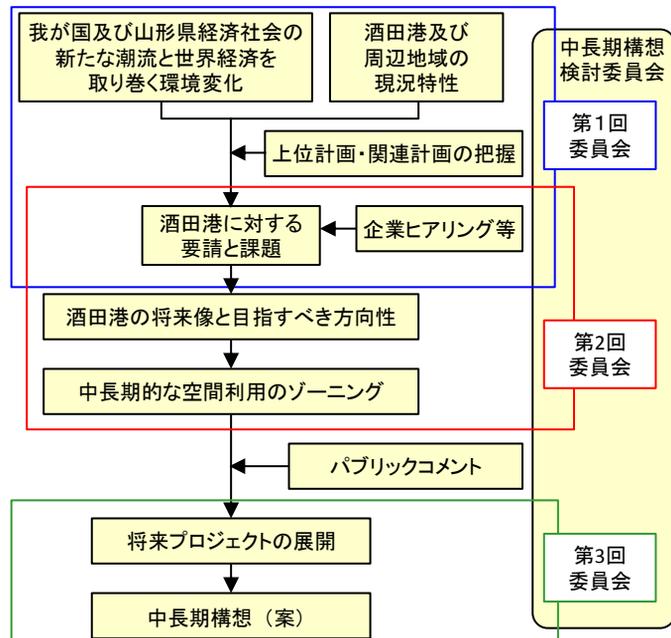
- 酒田港の将来像の検討に関し、学識経験者を中心とした専門的な意見及び地元関係者、港湾関係者など地域の多様な意見を反映するため酒田港中長期構想検討委員会を設置し検討を行いました。

### 検討の経過

#### 全体スケジュール

年度	月	開催内容	開催日
H29年度	3月	第1回委員会・幹事会(合同) ・酒田港中長期構想の検討の進め方について ・酒田港及び周辺地域の現況特性について ・酒田港に対する要請と課題について① など	3/29開催
	9月	第2回幹事会	9/10開催
	10月	第2回委員会 ・酒田港に対する要請と課題について② ・果たすべき役割と将来像について ・中長期的な空間利用のゾーニング など	10/19開催
H30年度	12月	パブリックコメント	12/19-1/18
	2月	第3回幹事会	2/5開催
	3月	第3回委員会 ・中長期構想(案)について	3/8開催
中長期構想策定			
H31年度	9月	山形県地方港湾審議会	
	11月	(国土交通省)交通政策審議会港湾分科会 [港湾計画改訂](予定)	

#### 委員会検討フロー



# 第1章 酒田港の目指すべき方向性と施策

## 1. 酒田港を取り巻く環境変化・問題

酒田港中長期構想を策定する上での前提条件として、我が国及び山形県を取り巻く環境変化や問題を整理しました。

### ■ 我が国を取り巻く世界情勢の変化・問題

#### 世界経済のグローバル化の進展

- ・2000年代当初の中国をはじめとした新興国・途上国の成長が加速し、さらに今後は、インドやASEAN10の成長が予測されている。
- ・シベリア鉄道、北極海航路の利用等、輸送環境の変化が期待される。
- ・関税等の貿易障壁の削減・撤廃に伴う国際貿易取引が増加している。
- ・輸出市場においては、付加価値が高く、競争力のある商品が求められている。

#### 東南アジア・南アジアへの生産拠点等の南下

- ・日本企業の生産拠点は東アジアから東南アジア諸国へシフトしつつあり、長期的には南アジア等へ南下していくと考えられる。
- ・生産工程の分散化が進むことによる部品供給等のサプライチェーンの確保が求められている。

#### リサイクル資源を巡る動向の変化

- ・リサイクル資源を巡り、中国の資源ごみ輸入規制、鉄スクラップ資源の需要地の遠隔地化の動向に変化が生じている。
- ・輸出相手国の需要に応じたリサイクル資源の有価物化や、輸出先の遠隔化による大型船舶に対応した施設整備等が求められている。

### ■ 山形県(背後圏)を取り巻く環境変化・問題

#### 人口減少

- ・「酒田港中長期構想」を描く2040年頃には、日本の人口は約15%、山形県は約25%減少する見通しである。(2015年比、出典:日本の地域別将来推計人口、国立社会保障・人口問題研究所)
- ・税収の減少、人材の不足など、地域の活力低下が懸念される。

#### コンテナ貨物自県港湾利用率の低迷

- ・山形県内で生産・消費されるコンテナ貨物が酒田港を利用して輸出入される割合「自県港湾利用率」は約23%と低い。(出典:平成25年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査、国土交通省)

#### 道路網の整備・進展

- ・山形県内の高速道路や高規格幹線道路等は順次整備されており、酒田港へのアクセス時間が短縮されるなどの利便性や信頼性が向上する見通しである。
- ・重要物流道路の指定と道路整備により、国際海上コンテナ車等の安定的な輸送が確保され、物流の生産性が向上する見通しである。

#### 農林水産物・食品の輸出拡大の動き

- ・農林水産省は、2019年までに輸出額の1兆円規模への拡大を掲げている。
- ・山形県は県産品の輸出拡大を積極的に進めている。(出典:山形県国際戦略 2015.3)
- ・他県との競合が懸念されるため、付加価値が高く、競争力のある商品が求められている。

#### エネルギー需給動向の変化

- ・政府見通しでは、電源構成に占める再生可能エネルギーの割合を拡大する方針である。(出典:長期エネルギー需給見通し、H27.7経済産業省)
- ・山形県でも「山形県エネルギー戦略」による再生可能エネルギーの導入促進に向けた取組みを進めている。
- ・風力、太陽光などのエネルギー源の多様化に伴い、メンテナンス需要を含めた資機材の受け入れ機能が不足している。

#### 外国人旅行者と訪日クルーズ旅客の急増

- ・訪日クルーズ旅客数は右肩上がりに増加している。
- ・山形県における外国人旅行者数も増加傾向にある。

#### 増加する大規模災害と港湾施設の老朽化

- ・大規模地震やそれに伴う巨大津波の発生が懸念されている。豪雨・台風・高潮等の激甚化が見られるなど、日本列島の自然災害リスクが益々高まっている。
- ・酒田港の供用後50年以上の岸壁の割合は、全国値よりも高いなど、港湾施設の老朽化が進行している。
- ・ソフト面、ハード面において、現在の状況と、求められている安全・安心の確保に乖離が生じている。

## 2. 酒田港中長期構想の基本理念

我が国及び山形県を取り巻く環境の変化や酒田の特性等を踏まえ、酒田港の中長期的な方向性となる基本理念は次のとおりです。

# 基本理念

～北前酒田湊のKOEKI（交易&公益）好循環～

## 酒田港の将来像

酒田に根付いてきた公益の精神は、人を集め、物を動かし、交易を広げるという好循環を生み出し、山形の繁栄の礎となっており、現在も物流の拡大や観光客の増加などに繋がっている。酒田港はこの精神を引継ぎ将来にわたり好循環を持続し、対岸諸国さらにはASEAN諸国との交流拡大の取組みを通じて新たな好循環を生み出し、国内はもとより国際社会に貢献する『国際公益拠点港』を目指す。

## 「公益」の精神は地域の誇りとして根付いている

### ■ 酒田の特性

#### 交易都市

- 最上川舟運によって、米、紅花の移出拠点として繁栄
- 北前船交易の寄港地として京文化が酒田へ移入
- 交易により「鎧屋」、「本間家」などの豪商が誕生

#### 公益の精神

- 本間家をはじめとした豪商による公益投資（公共事業、財政再建支援、慈善事業、救済事業、育英事業等）
- 交易で得た利益を公益事業に拠出、地域に還元

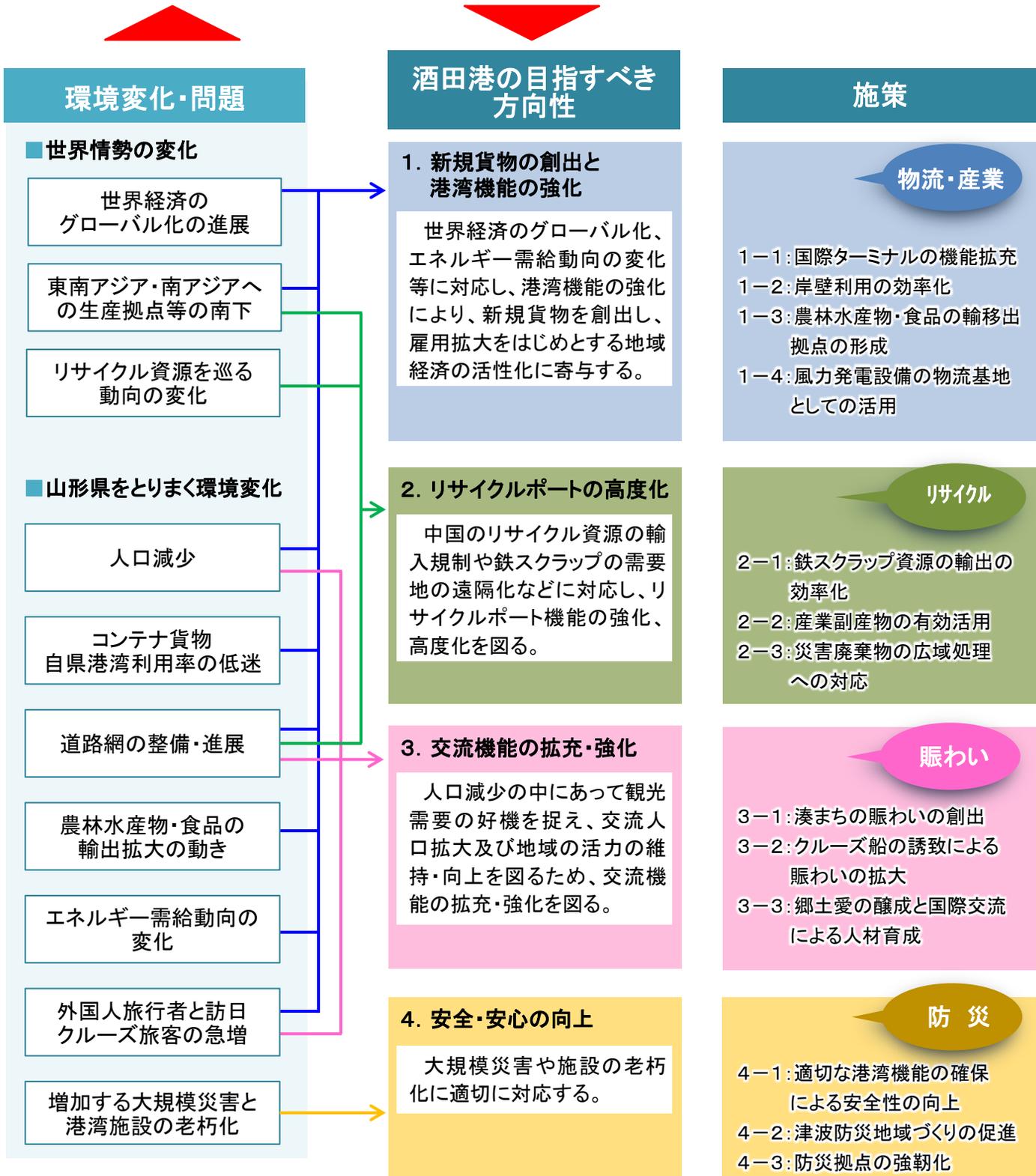


最上川舟運  
(最上川の主な河岸、船着場)  
※河岸等の位置は「山形県史・要覧」より

### 3. 酒田港の目指すべき方向性と施策

「北前酒田湊のKOEKI(交易&公益)好循環」という基本理念に基づき、酒田港の目指すべき方向性を整理しました。酒田港では、その方向性を実現するため、各施策に取り組むこととします。

## 基本理念 ～北前酒田湊のKOEKI(交易&公益)好循環～



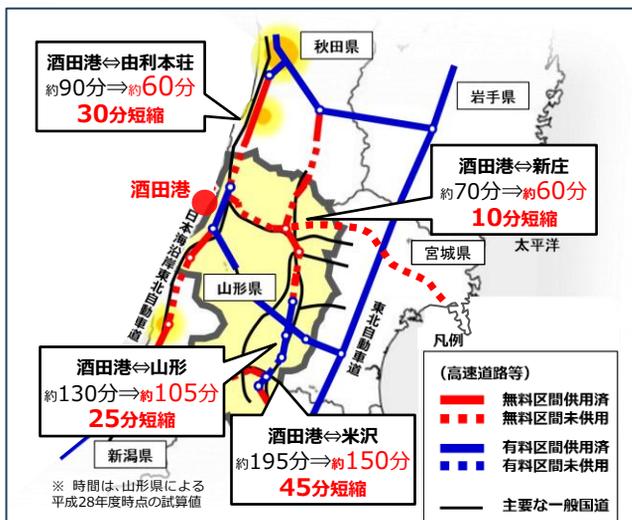
# 第2章 実現に向けた取り組み

## 目指すべき方向性 - 1 : 新規貨物の創出と港湾機能の強化

### 施策 1 - 1 : 国際ターミナルの機能拡充

道路整備の進展による物流圏域の拡大、対岸諸国の経済情勢や輸送環境の変化を見据えながら、物流関連施設等の整備促進や国際ターミナルの機能拡充を図るとともに、新規航路の開拓を目指します。

#### 道路整備による物流圏域の拡大



物流圏域の拡大による  
貨物の取り込み

#### 国際ターミナルの機能拡充のイメージ



増加貨物への対応、隣接企業との連携、物流関連施設、農林水産物輸出関連施設の整備 (トラックターミナル、物流倉庫、冷蔵・冷凍倉庫、危険物倉庫)



国際ターミナルの将来利用イメージ

酒田港のコンテナ取扱貨物量は、平成26年から4年連続過去最高を更新するなど、増加傾向にあります。また、今後は無料区間の道路整備の進展により、酒田港までのアクセスの利便性や信頼性が向上することで物流圏域が拡大し、今後とも貨物量が増加すると見込まれています。さらに、対岸諸国の経済情勢の進展による経済交流の活発化、輸送環境の変化が想定されます。

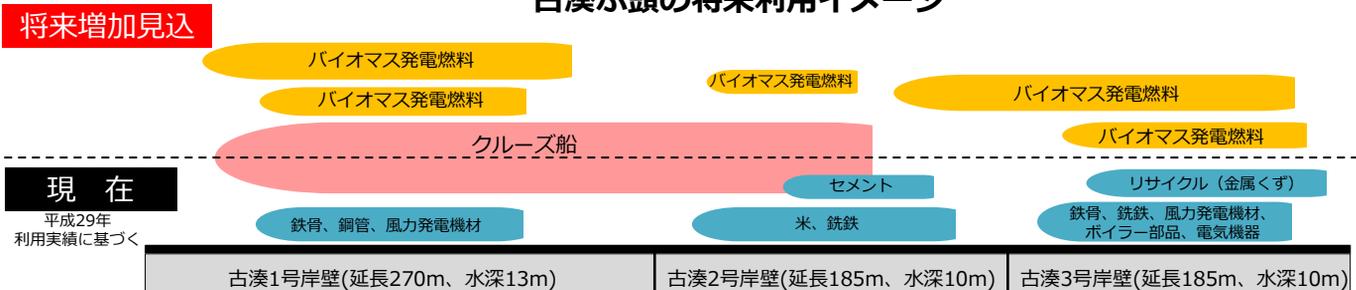
このような環境変化に対応できる国際ターミナルを目指し、背後用地への物流関連機能の誘致や隣接企業との連携などの機能拡充を図るとともに、新規航路の開拓を目指します。

# 目指すべき方向性 - 1 : 新規貨物の創出と港湾機能の強化

## 施策 1 - 2 : 岸壁利用の効率化

クルーズ船の寄港やバルク貨物（バイオマス発電燃料）の増加に対応したふ頭利用の見直しや新規岸壁の整備により、岸壁利用の効率化を図る。

### 古湊ふ頭の将来利用イメージ



※現在利用している貨物の船舶表示はまとめて記載している。

現在 + 将来増加見込の利用船舶すべてを受け入れることは困難

- ・ふ頭利用の見直し
- ・新規岸壁の整備



大型クルーズ船寄港の増加やバイオマス発電施設の立地に伴い、水深が深く延長が長い岸壁がある古湊ふ頭を利用する船舶の増加が見込まれています。  
 このような状況に対応するため、新規岸壁の整備やふ頭利用の見直しを行い、岸壁利用の効率化を図ります。

## 目指すべき方向性 - 1 : 新規貨物の創出と港湾機能の強化

### 施策 1 - 3 : 農林水産物・食品の輸移出拠点の形成

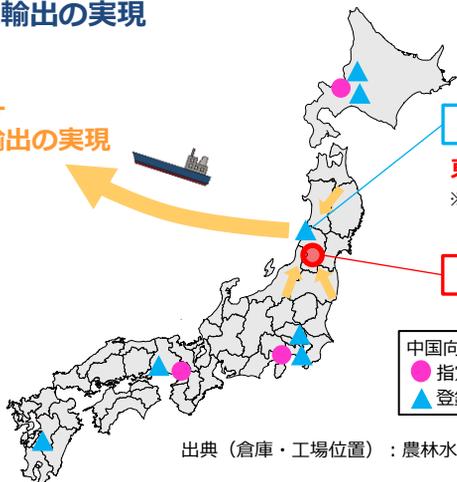
農林水産物・食品の海上輸送に必要な施設整備やフェリー・RORO船の誘致により、山形県・近隣県の農林水産物・食品の輸移出の拠点化を目指す。

#### ■ 酒田港利用による中国向け精米輸出の実現



山形県をはじめとする米の主産地である東北各県産の米の輸出を実現するため、酒田港西ふ頭くん蒸上屋を活用、精米工場の指定を促進

中国向け  
精米輸出の実現



酒田港西ふ頭くん蒸上屋\*

東北では酒田港のみ登録

※平成30年5月に中国向け精米を輸出できる  
くん蒸倉庫に登録

精米工場の指定促進

中国向け  
● 指定精米工場  
▲ 登録くん蒸倉庫

出典（倉庫・工場位置）：農林水産省「需要に応じた生産・販売の推進に係る  
全国会議（平成30年11月30日）」資料

中国向け精米輸出の実現を足がかりに、農林水産物・食品の輸移出の拡大

#### 農林水産物・食品の輸移出拠点のイメージ

農林水産物・  
食品の輸移出



コンテナ・フェリー・  
RORO船の活用

県産品の  
輸移出



地理的表示「山形」の清酒

酒田港

#### ■ フェリー・RORO船の就航

貨物輸送による環境負荷低減やトラックドライバー不足への対応のため、モーダルシフトの推進としてフェリー・RORO船を誘致

#### ■ 受入機能の拡充

農林水産物・食品の輸移出関連施設の整備  
(定温倉庫、冷蔵・冷凍倉庫等)

酒田港には、東北地方で唯一、中国向け精米輸出に対応したくん蒸倉庫があります。この強みを活かし、中国向け精米輸出に対応した精米工場の指定を促進し、山形県をはじめとする米の主産地である東北各県産の米の中国向け輸出の拡大を図ります。さらに、フェリー・RORO船の就航や農林水産物輸出関連施設の整備を通じて、農林水産物・食品の輸移出拠点の形成を目指します。

※RORO船：貨物を積んだトラックやシャーシ(荷台)ごと輸送する船舶のこと。乗客定員12名以下。  
Roll-on Roll-off shipの略。

## 目指すべき方向性 - 1 : 新規貨物の創出と港湾機能の強化

### 施策 1 - 4 : 風力発電設備の物流基地としての活用

風力発電設備の部材の荷揚げ、組立て及びメンテナンスが可能な港として、岸壁の強化やふ頭用地の確保などにより、風力発電設備の物流基地の形成を目指す。

#### 洋上風力

酒田港近隣に風況の良好な海域があり、導入可能性について検討中

#### 陸上風力

新設、更新の需要あり



酒田港北港地区の風力発電状況



風力発電部材の荷揚げ状況 (古湊ふ頭)

風力発電設備の部材の荷揚げ、組立て、メンテナンスの拠点化

### 風力発電設備の物流基地のイメージ



風力発電設備の物流基地のイメージ



拠点の役割のイメージ

酒田港及びその周辺には多くの風力発電施設が立地しており、今後は陸上はもとより、周辺の一般海域での洋上風力発電施設の整備や、それらのメンテナンス、更新の需要が発生すると考えられます。

こうした需要に対応するため、風力発電設備の部材の荷揚げ、組み立て、メンテナンスを行う物流基地の形成を目指します。

## 目指すべき方向性-2：リサイクルポートの高度化

### 施策2-1：鉄スクラップ資源の輸出の効率化

鉄スクラップ輸出先の遠隔地化・多様化に対応するため、日本海側のリサイクルポート間で連携し、鉄スクラップの効率的な輸出を目指す。

#### 鉄スクラップ輸出先の遠隔地化



出典：「第1回 リサイクルポート施策の高度化研究会  
(平成29年11月24日、国土交通省港湾局)」に基づき作成

#### 酒田港で扱われる鉄スクラップ



### 鉄スクラップ資源の輸出の効率化のイメージ

#### リサイクルポート間の連携

- ・国内地域別のスクラップの発生見込み、集荷能力等の分析、情報共有
- ・海外の鋼材・スクラップ需要の情報共有

#### 必要に応じた整備

- ・大型船舶が接岸可能な岸壁
- ・大規模な集積ヤード

貨物の集約化、  
船舶の大型化による  
輸送効率の向上

鉄スクラップは酒田港の主要貨物の一つで、公共岸壁、専用岸壁の両方で取り扱われています。海外の輸出先は遠隔地化・多様化が進んでおり、今後は効率的な輸出体制の確立が求められます。

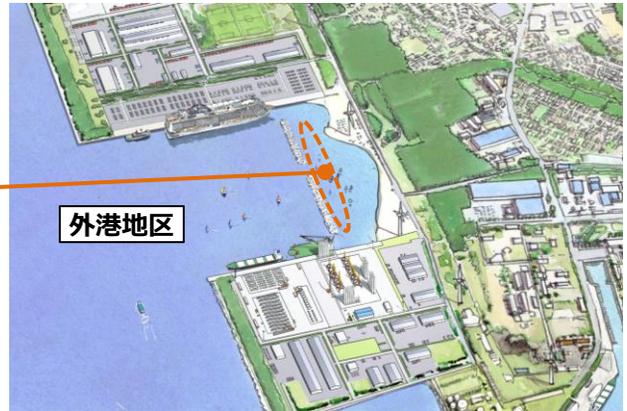
このような状況に対応するため、リサイクルポート間の連携や、必要に応じた岸壁整備などを行い、貨物の集約化、船舶の大型化による効率的な輸出を目指します。

## 目指すべき方向性-2：リサイクルポートの高度化

### 施策2-2：産業副産物の有効活用

背後圏域で発生する産業副産物等について、環境保全につながる活動や新たな再資源化への取組みを促進する。

#### 酒田港内の環境改善のイメージ



#### 産業副産物の有効活用事例

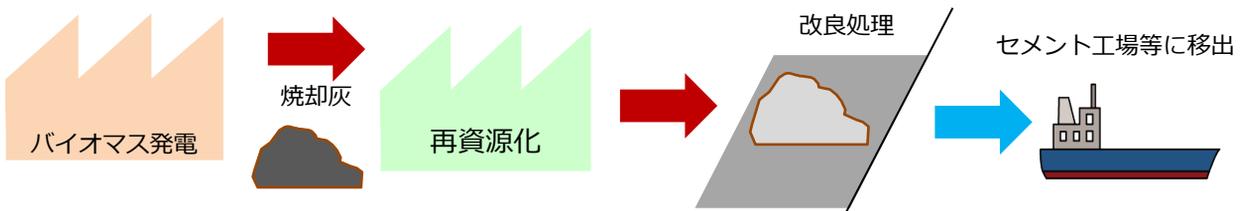
フライアッシュは、主にセメントの混和材やFRC砕石（再生砕石）として活用されている。さらなる活用として、フライアッシュ利用製品を藻場再生のためのブロックとして設置する取組みが進んでいる。ブルーカーボン生態系の活用によるCO<sub>2</sub>吸収源確保のため、それらの生産拡大が見込まれる。



大浜海岸での藻場造成実験  
出典：酒田FRC有限責任事業組合

#### バイオマス発電焼却灰の活用のイメージ

バイオマス発電で発生した焼却灰について、再資源化の取組みにより、有効活用を行う。



酒田港には火力発電所、バイオマス発電所が立地しています。現在も火力発電所から発生する石炭灰の一部は酒田港内に立地するリサイクル企業で再資源化が行われています。今後は背後圏も含めたバイオマス発電所の立地が進み、焼却灰の発生量の増加が見込まれています。

このように増加する産業副産物を有効活用するため、環境保全につながる活動や新たな再資源化への取組みを促進します。

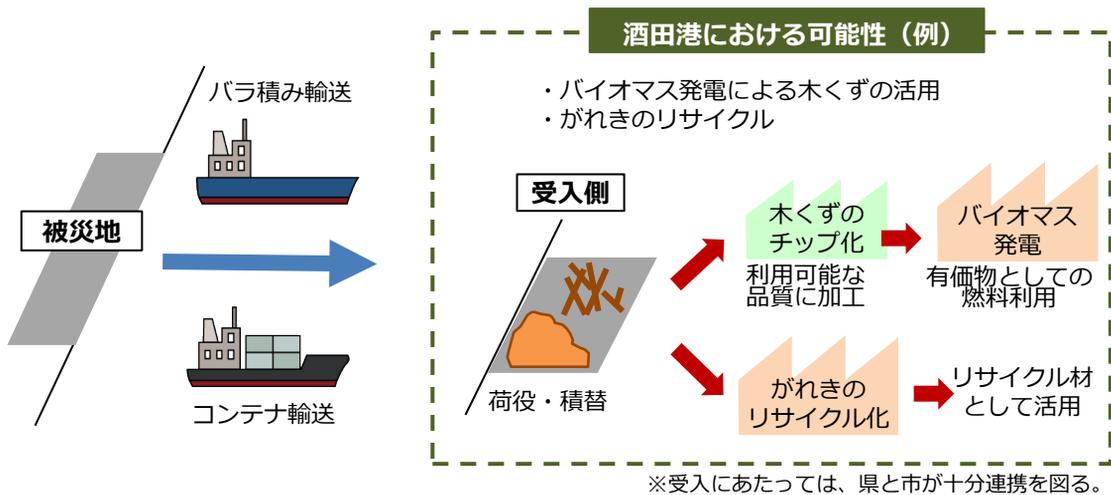
## 目指すべき方向性－２：リサイクルポートの高度化

### 施策2－3：災害廃棄物の広域処理への対応

リサイクル産業が集積している酒田港の特徴を活かし、災害廃棄物の広域処理の要請に対応できる港を目指す。

#### 災害廃棄物の広域処理のイメージ

国土交通省の「リサイクルポート施策の高度化に向けた今後の取組」において想定している廃棄物処理の流れと「受入側港湾」の役割を参考に、対応可能な災害廃棄物の受入れに取り組む。



#### 酒田港に立地するリサイクル産業



近年の災害の甚大化に伴い、被災時に発生するガレキ等の災害廃棄物への処理の対応が課題となっています。

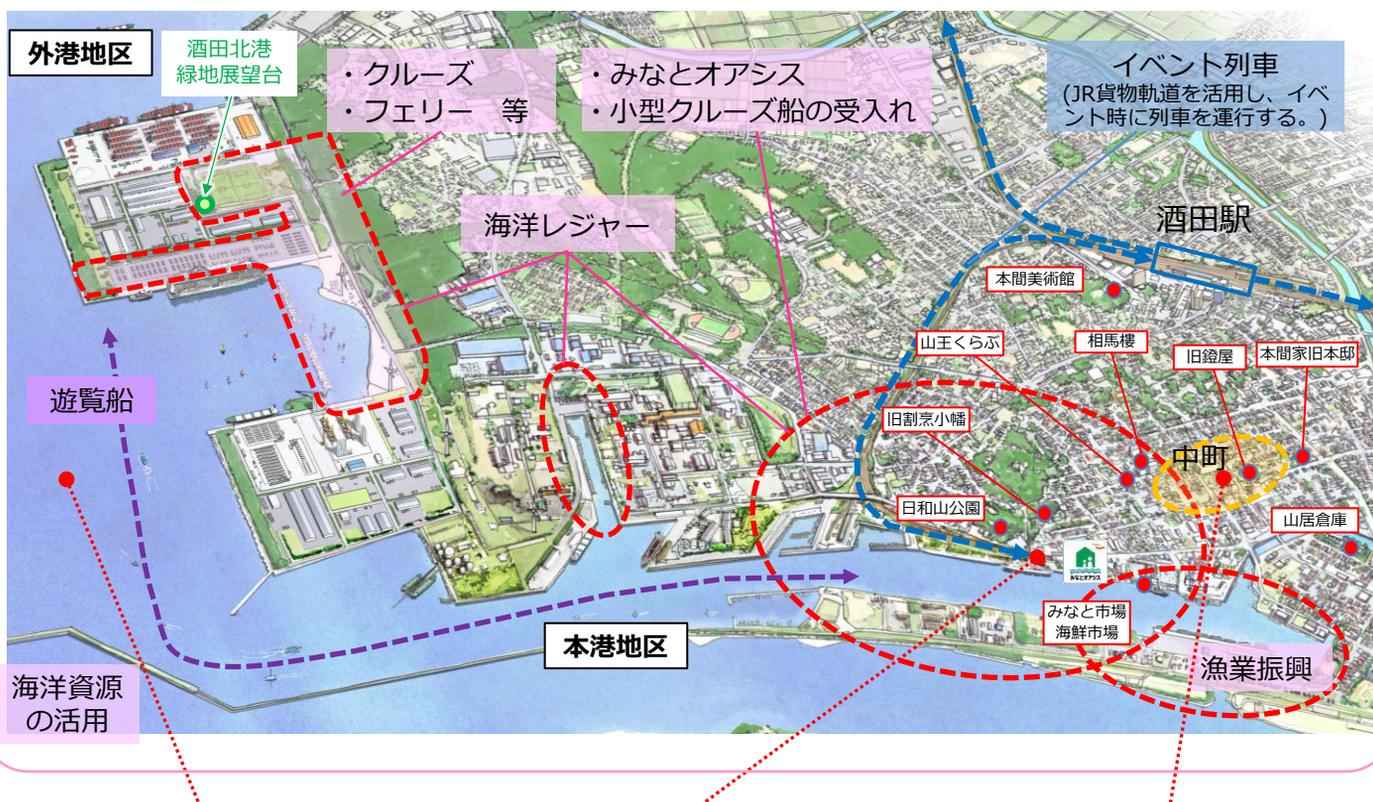
酒田港周辺には多くのリサイクル産業が集積しており、その強みを活かし、災害廃棄物の広域処理の要請に対応できる港を目指します。

## 目指すべき方向性－3：交流機能の拡充・強化

### 施策3－1：湊まちの賑わいの創出

港周辺の観光資源や海洋資源の活用、漁業の振興、産業観光の振興、クルーズ拠点の整備などにより、新たな賑わいを創出し、交流人口の拡大を図る。

#### 湊まちの賑わいのイメージ



クルーズ船から見たクルーズエリア、海洋レジャーなどの賑わい



海路と陸路の結節点となる本港地区の賑わい



酒田港と一体的に創出される中町の賑わい

酒田港周辺には魅力的な観光施設や海洋資源、漁業関連施設、湊まちの景観など、豊富な観光資源があります。

これらのコンテンツを有効に活用し、海路、鉄道などで有機的に結び、また必要な施設整備を推進することで、新たな賑わいを創出し、交流人口の拡大を図ります。

## 目指すべき方向性-3: 交流機能の拡充・強化

### 施策3-2: クルーズ船の誘致による賑わいの拡大

県内の観光地と連携することでクルーズ船の誘致を推進し、県内観光の振興と賑わいの拡大を図る。



大型クルーズ船が接岸可能なクルーズエリア



平成29年に外航クルーズ船が酒田港に初寄港し、以後の寄港数は増加傾向にあります。加えて、道路ネットワークの整備の進捗により、クルーズツアー範囲の拡大が見込まれています。

このような利点を活かし、県内観光地と連携してクルーズ船を誘致し、県産品の魅力を伝え、山形ファンを増やし、さらなる県内観光の振興と賑わいの拡大を図ります。

## 目指すべき方向性-3: 交流機能の拡充・強化

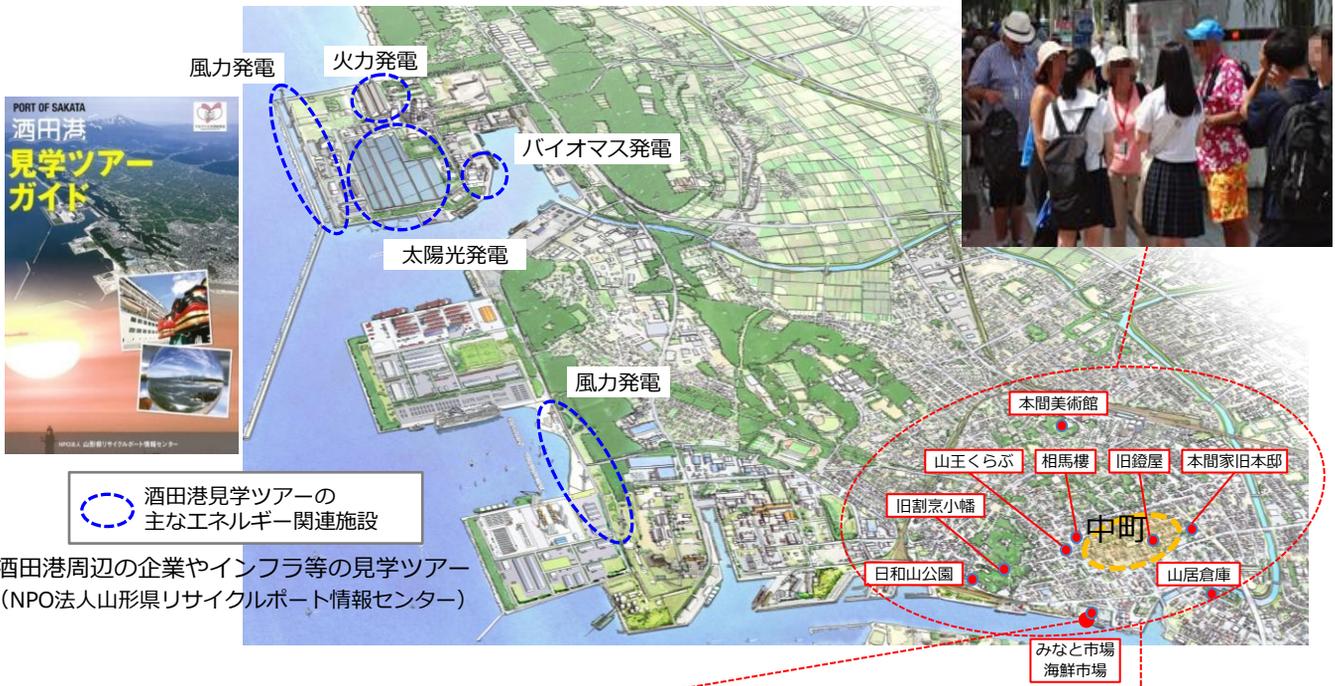
### 施策3-3: 郷土愛の醸成と国際交流による人材育成

郷土愛の醸成を図る場や国内外へ情報発信する力を身につける場として酒田港を活用することで、海外への広い視野を持った地域の人材を育成する。

酒田みなとの探検隊  
(港湾への親しみを深めるための消波ブロックペイント企画)



外航クルーズ船寄港時の  
高校生ボランティアによるおもてなし



酒田港周辺の企業やインフラ等の見学ツアー  
(NPO法人山形県リサイクルポート情報センター)



酒田みなとの探検隊 (港湾学習)



港湾学習の場として利用される  
酒田海洋センター



酒田交流おもてなし市民会議  
外国語サポーター研修会

湊まちの歴史、文化、産業などの学びを通じた郷土愛の醸成と、外国人旅行者等に対する観光ボランティアガイド等を通じた国際交流やおもてなしにより、海外への広い視野をもった地域の人材の育成を図ります。

## 目指すべき方向性－4：安全・安心の向上

### 施策4－1：適切な港湾機能の確保による安全性の向上

防波堤の整備や航路・泊地の水深確保等の維持管理により、荷役や船舶航行の安全性の向上を図る。

#### 防波堤の整備

##### 現配置計画の懸案事項

- ・船舶が入出港する際、防波堤を迂回する必要があり、最上川の流れの影響を受ける。
- ・最上川からの流下土砂が港内に流入・堆積し、航路・泊地の水深が浅くなるおそれがある。



##### 計画の見直しにおける留意事項

- ・安全な航路の確保
- ・最上川からの流下土砂の港内流入の低減



安全で安心な港湾利用

#### 港湾施設の維持管理

港湾施設の維持管理計画

巡視・定期点検

計画的な補修・浚渫等

酒田港では、冬期の風浪等による入出港障害や荷役障害が発生しやすく、施設の利用が低い状況にあり、利用率の向上が求められています。また、供用開始後50年以上となる岸壁の割合が全国値を上回るなど、維持管理も急務となっています。

これらの要請に対応していくため、防波堤の整備や港湾施設の適切な維持管理により、安全性の向上を図ります。

## 目指すべき方向性－４：安全・安心の向上

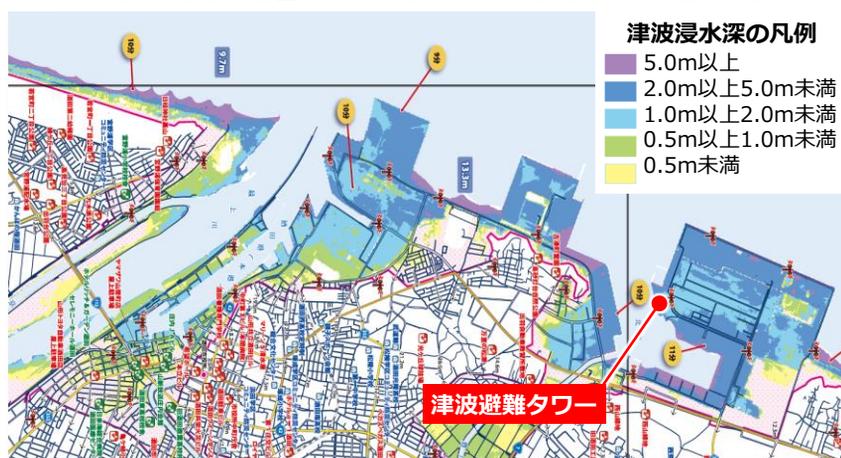
### 施策４－２：津波防災地域づくりの促進

「津波防災地域づくりに関する法律」に基づく警戒避難体制の整備を促進し、津波に対する安全・安心の向上を図る。

#### 津波浸水想定の設定【知事】

- ・ L1 津波（頻度の高い津波）（※1） ▶ 酒田港では施設整備は不要
- ・ L2 津波（最大クラスの津波）（※2） ▶ 津波浸水想定図を公表

津波浸水想定図を基に津波ハザードマップを作成【酒田市】



出典：酒田市津波ハザードマップ（平成29年4月）

一時避難場所の指定  
【酒田市】  
（酒田共同火力発電(株)  
の津波避難タワー）



今後

#### 津波災害警戒区域の指定【知事】

#### 警戒避難体制の整備【市町村長】

- ・ 警戒避難施設・避難路・避難訓練
- ・ 情報伝達・津波ハザードマップの作成 等
- ・ 必要に応じ津波災害特別警戒区域の検討

#### 津波災害特別警戒区域の指定【知事】

- ・ 要配慮者利用施設の居室の床面の高さを基準水位以上に制限
- ・ 要配慮者利用施設の建築を予定した盛土等の開発行為の規制
- ・ 市町村長が条例で定めた施設・用途について、要配慮者利用施設と同様の制限・規制

津波に対する  
安全・安心の向上

津波浸水想定の設定により、L1 津波（頻度の高い津波）では、酒田港の津波対策施設の整備は不要ですが、L2 津波（最大クラスの津波）では、港湾地域の多くが浸水することが想定されています。L2 津波への対応は、住民等の生命を守ることを最優先としています。

そのために、酒田市や酒田港に立地する企業等と連携を図り、警戒避難体制の整備を促進し、津波に対する安全・安心の向上を図ります。

※1 L1 津波：概ね数十年から百数十年に一回程度の頻度で発生する津波。海岸保全施設等の整備により対応する。

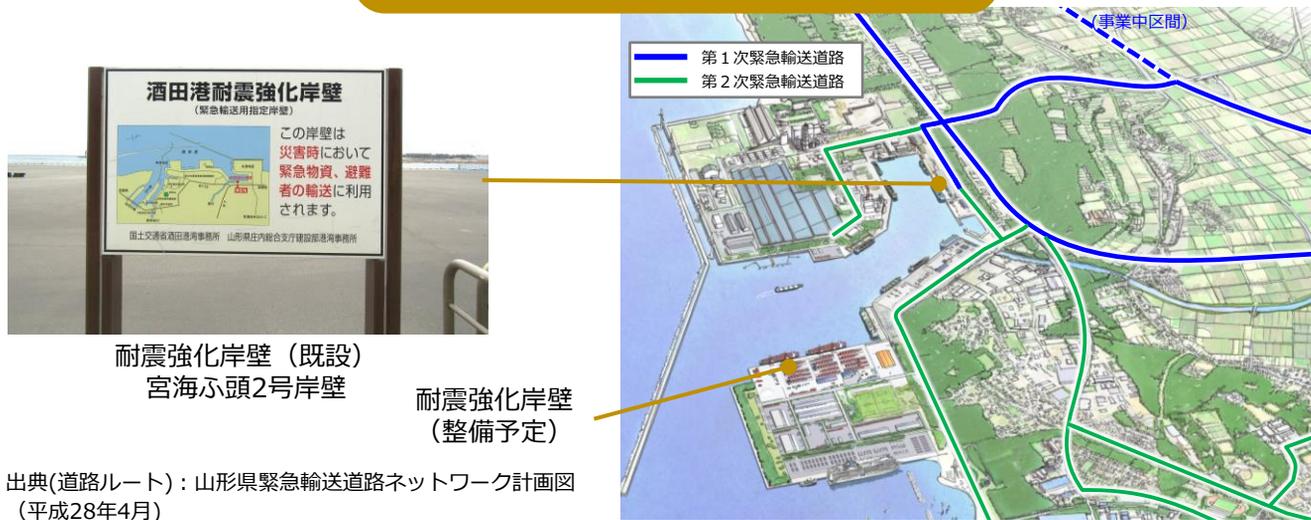
※2 L2 津波：概ね数百年から千年に一回程度の頻度で発生し、影響が甚大な最大クラスの津波。住民等の生命を守ることを最優先とし、住民等の避難を軸に、とりうる手段を尽くして総合的に対応する。

## 目指すべき方向性－4：安全・安心の向上

### 施策4－3：防災拠点の強靱化

耐震強化岸壁のさらなる整備や港湾BCPの強化により、災害時における緊急物資の輸送拠点を強靱化するとともに、近隣港が被災した場合のバックアップの役割を担う。

#### 防災拠点の強靱化のイメージ



#### ■ 酒田港の被災への対応



出典：国土交通省港湾局 耐震強化岸壁について (平成24年3月)

#### 耐震強化岸壁を利用した緊急支援物資の輸送例

東日本大震災では、被害を受けた港湾で耐震強化岸壁を活用した緊急物資等の輸送が行われ、人命救助、被災者の支援、経済活動の早期回復などに寄与しました。酒田港においては、耐震強化岸壁が整備されていますが、有事に備えて更なる岸壁整備やBCPの強化が必要です。また、被災港のバックアップ機能の拡充も求められています。

これらに対応するため、「酒田港の被災」、「近隣港の被災」という2つの側面から、防災拠点となる港湾の強靱化を図ります。

#### ■ 近隣港の被災への対応

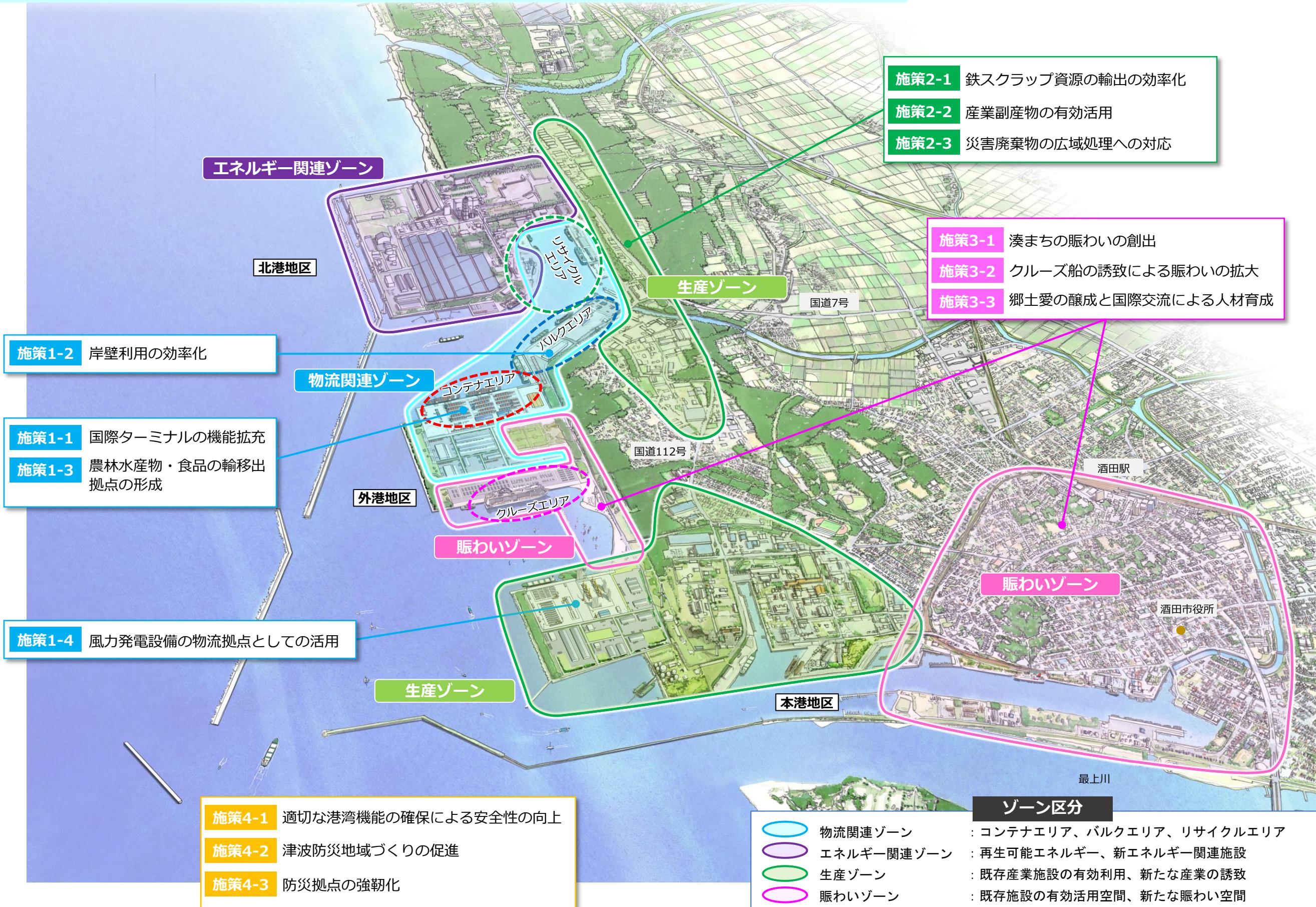


#### 物流のバックアップ体制のイメージ

※港湾BCP：港湾における事業継続計画（Business Continuity Plan）。大規模災害等の不測の事態が発生した場合に、重要な業務を中断させない、または中断しても可能な限り短期間で復旧させるための方針、体制、手順等を示したもの。酒田港では港湾BCPとして平成27年3月に「酒田港港湾機能継続計画」を策定している。

# 第3章 中長期的な空間利用のゾーニング

第2章で整理した各施策に基づき、中長期的な酒田港の土地利用の姿をゾーニングとして整理しました。



エネルギー関連ゾーン

北港地区

生産ゾーン

- 施策2-1 鉄スクラップ資源の輸出の効率化
- 施策2-2 産業副産物の有効活用
- 施策2-3 災害廃棄物の広域処理への対応

- 施策3-1 湊まちの賑わいの創出
- 施策3-2 クルーズ船の誘致による賑わいの拡大
- 施策3-3 郷土愛の醸成と国際交流による人材育成

施策1-2 岸壁利用の効率化

物流関連ゾーン

- 施策1-1 国際ターミナルの機能拡充
- 施策1-3 農林水産物・食品の輸移出拠点の形成

外港地区

賑わいゾーン

施策1-4 風力発電設備の物流拠点としての活用

生産ゾーン

本港地区

賑わいゾーン

酒田市役所

最上川

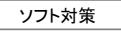
- 施策4-1 適切な港湾機能の確保による安全性の向上
- 施策4-2 津波防災地域づくりの促進
- 施策4-3 防災拠点の強靱化

**ゾーン区分**

	物流関連ゾーン	: コンテナエリア、バルクエリア、リサイクルエリア
	エネルギー関連ゾーン	: 再生可能エネルギー、新エネルギー関連施設
	生産ゾーン	: 既存産業施設の有効利用、新たな産業の誘致
	賑わいゾーン	: 既存施設の有効活用空間、新たな賑わい空間

# 【資料】 施策の展開イメージ

目指すべき方向性	施策	短期(～10年)	中期(～20年)	長期(～30年)
1. 新規貨物の創出と港湾機能の強化	1-1 国際ターミナルの機能拡充	港湾利用による輸送促進(ポートセールス)、新規航路の誘致、物流関連機能の誘致等		
		貨物量の動向把握、必要な施設の検討	ターミナル関連用地造成、施設の設計、整備	
	1-2 岸壁利用の効率化	ふ頭の利用調整、見直し		
		新規岸壁の検討、設計、整備		
1-3 農林水産物・食品の輸移出拠点の形成	港湾利用による輸送促進(ポートセールス)、海外への県産品のセールス(訪日クルーズ旅客をターゲット等)、中国向け精米工場の指定促進、フェリー・RORO船の誘致、トライアル輸送等			
	貨物量・需要の把握	農水産品の輸移出に必要な施設(設備)の検討、設計、整備		
	フェリー・RORO船の岸壁の検討	岸壁の設計、整備		
1-4 風力発電設備の物流基地として活用	風力発電設備のメンテナンス等の需要に応じた既存施設活用の検討、設計、整備			
	物流基地等の検討	ふ頭用地、岸壁、航路泊地の設計、整備		
2. リサイクルの高度化	2-1 鉄スクラップ資源の輸出の効率化	リサイクルポート間及びリサイクルポート推進協議会等と連携した輸送システムの構築		
			必要に応じた施設の検討、設計、整備	
	2-2 産業副産物の有効活用	環境保全活動、再資源化への取組みの促進		
2-3 災害廃棄物の広域処理への対応	災害廃棄物受入れの検討、民間企業等による受入態勢の構築			
3. 交流機能の強化	3-1 湊まちの賑わいの創出	湊まちの賑わい創出(観光資源や海洋資源の活用、小型クルーズ船・遊覧船・海洋レジャー・イベント列車の誘致等)		
			クルーズ拠点の検討、用地造成・航路泊地・施設の設計、整備	
	3-2 クルーズ船の誘致による賑わいの拡大	県内観光地と連携したクルーズ船の誘致		
3-3 郷土愛の醸成と国際交流による人材育成	港やイベント等の活用による人材育成			
4. 安全・安心の向上	4-1 適切な港湾機能の確保による安全性の向上	港湾施設の適切な維持管理(点検・補修等)		
		第二北防波堤の配置見直し検討、設計・防波堤の整備(改良を含む)		
	4-2 津波防災地域づくりの促進	警戒避難体制の整備促進		
4-3 防災拠点の強靱化	港湾BCPの強化(災害時の緊急物資輸送拠点、近隣港湾のバックアップ)			
		耐震強化岸壁の検討、設計、整備		

凡例：  ハード整備  ソフト対策